

特定非営利活動法人

ポラリス



2015 年度事業報告

期間：2015 年 5 月 14 日～2016 年 3 月 31 日

2016 年 6 月 4 日

■ 2015年度 事業計画にむけた方針

【プロローグ】：はじめに

私達は、障害のある方や心のケアが必要な方の**社会資源を山元町にもう一つ増やす**事と、これからの地域課題の解決のために公共サービスの隙間を埋める **NPO の活動の必要性を地域に理解していただく**ことを目的として、障害者福祉を直接的・専門的に担う NPO 法人を 2015 年 5 月に設立した。そして、7 月 31 日には、宮城県の指定を受け、障害福祉サービス事業：就労継続支援 B 型事業所「ポラリス」を自主事業としてスタートした。震災後継続して山元の障害者福祉の状況を見守っている全国や町内の団体や個人から立ち上げのための応援をたくさんいただいた。寄付や助成金での支援と会員（103 名：2016 年 3 月現在）として活動参加などがあった。私達は震災直後の究極的な緊急事態から、今後どうやって障害者福祉を創造していくことが、あの時と同じくらい思いをしないために必要か、という視点から地域全体を巻き込んだコミュニティ創造にも挑戦を始めた。宮城地域復興支援助成の応援を受けながら、世代や立場を超えて参加するあらゆる人達が様々な地域課題や自分の生き方について語り合う「対話と学び」の場づくりを進めてきた。このようなポラリスの活動や空間作りを進めるために、この建物のオーナーである松村クリニック院長松村吉一氏の多大な協力をいただけたことが何より重要で心より感謝を申し上げたい。

また、ポラリスの活動を継続、発展するためにはそれを担うスタッフの人材育成がとても必要と考え、大和証券と日本 NPO センターによる助成：「フェニックスジャパン・プログラム」による人材育成事業も 10 月から実施している。これらの様々な応援への感謝を活動に込めた 1 年だった。立ち上げの 1 年は完了。次は継続、発展へ。地域の様々なバックグラウンドを持つ方々と共に福祉分野が孤立しない「新しい山元の創生」へ、その活動の道しるべとなるべく、ポラリスは進んでいきたい。

【組織概要】

設立年月日	2015 年 5 月 14 日
代表理事	田口 ひろみ
理事	品堀 学 佐藤 路代
会員数	正会員 12 名 一般会員 91 名 (2015 年 3 月 31 日現在)
住所	〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原 72 番地 64
TEL/FAX	0223-36-7410
MAIL	activities_polaris@yahoo.co.jp
WEB	http://polaris-yamamoto.com

【2015 年度をふりかえって】

ポラリスは、地域につながっていない障害者や心のケアが必要な方が、一歩ずつリハビリを進め、「自分のペースで自分らしく地域の中で生きていけるようになる」ためのソーシャルワーク的視点を大切にして活動を進めてきた。それを進め、ポラリスの活動が定着し地域に認知され、中長期的には、自主事業である障害者就労継続支援 B 型事業をベースに安定した経営ができることを目指している。

そのための**日々の支援、「アート&ケア」、それに続く「地域の担い手育成」**がおおむね順調に進んでいる。

また、世代や立場を超えた様々な業界の方とつながり、障害者をはじめとする弱者が地域で孤立しない地域づくりを目指す「対話と学び」「心のケア」の場づくりで地域に貢献することができた。

■事業内容

[総務]

1.会議等の業務

(1)設立総会の開催 平成 27 年 2 月 28 日

(2)臨時総会の開催 平成 27 年 8 月 9 日

- 定款変更
- 役員変更
- 事業開始の報告
- 立替寄付に関する報告

(3)第 1 回通常総会の開催 平成 28 年 6 月 4 日

- 役員選任
- 事業報告
- 決算報告
- 事業計画
- 予算計画

2.会員に対する業務

- 正会員・一般会員の入会に伴う業務（情報紙・お礼状・領収書・記念品送付）
- 正会員・一般会員に障害者支援の報告書の送付

3.経理などの業務

- 資金管理として、現預金などの日常の管理状況を明確にした。
- 税務に関する業務として、源泉徴収税等の税務関連の業務を確実に行った。
- ◆実施内容と成果・課題：NPO法人会計と障害者就労支援会計に長けた石田会計事務所に税務と会計に関する業務を委託した。

4.労務管理などの業務

- 法人に関連する人事労務管理、労働保険や社会保険関係の手続きに関する書類作成・届出、法改正および助成金に関する情報提供などの業務について、社会保険労務士ぬまぐち事務所に委託した。

5.総務関連などの業務

(1)業務運営に必要な届出業務（宮城県に）

(2)重要な契約等

6.広報などの業務

- フェイスブックやこれまでお世話になった方や企業・団体への法人化の文書郵送で、広報活動を行った。2016 年 3 月にウェブサイトや法人事業全体のリーフレットが完成し、今後本格的に活動を進める予定。

【自主事業】 障害者就労継続支援B型事業所ポラリスの運営

1.事業所名 就労継続支援B型事業所ポラリス

2.事業開始年月日 平成27年8月1日

3.利用者定員 20名

4.従業員の人数 管理者1名

サービス管理責任者1名（管理者と兼務）

職業指導員 1名（常勤専従）

生活指導員 2名（非常勤）

5.当年度重点事業目標

●一人ひとりの障害を考慮し、個性を活かし、「はたらく」「まなぶ」「あそぶ」という3つのバランスで、毎日張り合いと楽しみを持ち、生活できることに支援の重点を置いた。また、福祉サービスにつながっていない方にアート&ケアの視点で安心して活動できる場、環境づくりに努め、**新たに5名の方に自宅から一歩出て地域交流する支援ができた。**

6.基本方針

- 障害を持つ人が地域の中で豊かな人間関係を持ち、様々な面で地域の担い手となりいきいきと働くことを支援する。
- 心のケアや地域福祉について学び、学ぶという生きがいを持ち、その上で自分らしい自立のあり方を考え行動することができるよう支援する。
- 障害者福祉に関わる人材が量・質ともに向上し、より良い障害者福祉を発展・継続させていく。

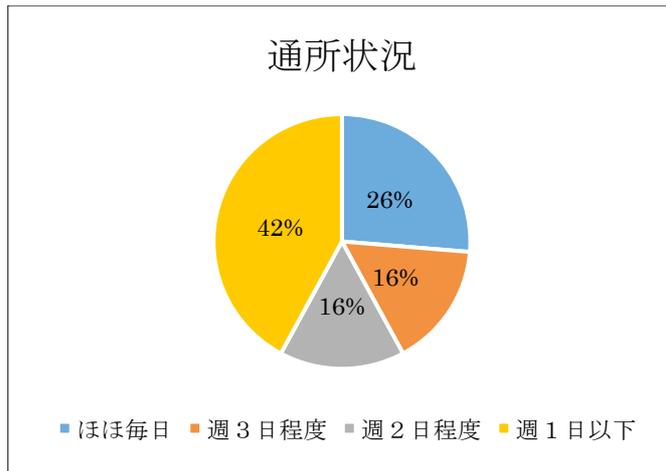
7.作業内容・提供サービス

- 創作活動支援
- 作業訓練
 - ・清掃作業訓練・接客販売訓練
 - ・事務作業訓練
 - ・アート訓練
- 職場実習、施設外就労、施設外支援
- 求職活動支援
- その他、余暇活動や生涯学習の機会提供



巨理町和苺を見学。

8.通所状況



ポラリスは、地域につながっていなかった障害者や心のケアが必要な方の支援に力を入れてきた。左の表のとおり、週1日以下の通所者が多いが、福祉サービスに新たに5名をつなげることができた。次年度はその方々の通所日数が徐々に増えるような支援、環境整備に努めていく。

9.職員の質の向上

- 利用者や体験者、ご家族の支援についての支援会議を必要なとき随時行い、支援方法を共有した。
- 心のケアカフェ等に参加し、精神科医師のアドバイスから身近な心のケアを学んだ。
- 県内や全国の先進的取り組みをしている団体との情報交換を行い、新しい障害者福祉や精神保健福祉のあり方を学んだ。



イラスト：森けい太

[企画事業]

1. 地域コミュニティ創造事業

社会的弱者にアプローチし、地域社会に統合するとともに、地域課題を解決するためにサービスの受益者・提供者を含め、多様な関与者が集う「対話と学びの場」を創り、これまでのコミュニティのあり方を変える。そのことによって、この場が、人々の意識に働きかけ、町の文化や人々の生き方の質を変革し、受身ではなく主体的に行動するようになり、誰もが心豊かにいきいきと生きていく「新しい山元」創生を目指す。また、その場を通じて、地域の担い手育成にも取り組んだ。

(1) 5月～7月

●5月16日(土) 10:00～12:15「山元町障害者福祉計画についての勉強会」

ポラリスを会場に、山元町保健福祉課より講師として 三宅元樹(主査)を派遣していただき、昨年度末に策定された山元町(第2期)障害者計画ならびに(第4期)障害福祉計画について障害当事者、家族、支援者、関係者の勉強会を開催した。また、この勉強会においては会員のみならず、一般参加をチラシやSNSで募り、当日は雨天にもかかわらず、町内外から10名の一般の方が勉強会に参加した。参加者:22名(地域別:山元町18名、丸森町2名、新地町1名、仙台市1名。構成:障害者9名、保護者・支援団体等関係者11名、その他2名。)

●6月28日(日)18:30～21:30「ラーニング・ジャーニー in 海士～学びの共有と対話の時間」

NPO法人GRA副理事齊藤光弘氏が企画し、講師(ボランティア)として参加して下さった。

「ないものはない」というキャッチコピーをかかげ、役場による積極的な地域振興策やI・Uターンの促進、高校魅力化プロジェクトの展開等々、「地方創生」のロールモデルとして話題になっている島根県海士町。「地方のこれからの町作り」をキーワードに、講師がツアーを通じて得た学びや気づきをご共有するとともに、それを呼び水にした対話の場をみなさんと創りたいと思い、イベントを企画した。ただ、海士町の取り組みを真似しよう!というのではなく、山元町の置かれている状況や、元々持っている特徴を踏まえた上で、これからの町作りにおいて、どんな面白いことができるのか? 対話と学びの場とした。「海士町訪問での気づきの共有」「山元町や東北のこれからの町づくりを考える」の2部構成。

参加者:16名(内訳:宮城県職員2名、山元町職員1名、まなびの森1名、ふらっと一ほく2名、ポラリス他障害者支援スタッフ5名、サントリー1名、NPO中間支援組織1名、地域住民1名、丸森町住民1名、NPO法人GRA1名)



(2) 8月～3月：みやぎ地域復興支援助成「コミュニティで変わる新しい山元創生事業」

◎内容

A. 多様な主体を巻き込んだ対話の場づくり（コミュニティカフェ）

多様な主体（女性、新住民、その他様々な人々）を巻き込んだ対話の場づくりを目的としたコミュニティカフェを8月から3月まで、年間171日実施し、1076名（1日平均6.3名）の利用者があった。

B. 対話・学びの場づくり

様々なバックグラウンドを持つ団体、地域の住民が参加し、それぞれの強みを持ち寄り、学び合う相互学習の機会を作った。ポラリスという物理的な場があることを生かし、学びの機会を提供し、意識改革/ 能力強化/ リーダーシップの醸成に取り組んだ。

開催月	テーマ	講師	参加人数
8月	8月22日（土）「合戦原遺跡をもっと知ろう！」	佐古和江氏（考古学者）	22
9月	9月12日（土）「子供たちの変化から辿る震災からの日々」	坂本一氏（一般社団法人 まなびの森代表）	14
10月	山元を元気にする壁画プロジェクトの準備 関係者打ち合わせ3日間、資料作り等	清水ますみ氏（歴史研究家）・菊地文武氏（山元町文化財保護委員）・庄司アイ氏 & 萱場裕子氏（やまもと民話の会）	53
11月	11月29日（日）「山元の歴史を知る勉強会 & アートワークショップ」 53名		
12月	12月6日（日）精神科医師による心のケア講座「年忘れメンタル講座～笑う門には福来る～」	蟻塚亮二氏（精神科医師）	104
1月	1月30日（土）「連携＆つながりが創造する明日のまちづくり～2015年振り返り&2016年ビジョンについての意見交換会～」	齊藤光弘氏（NPO法人GRA副代表 / 合同会社 あまね舎）	13
2月	2月28日（日）「伊達ルネッサンス塾」の取り組みから考えてみる対話と学び～人と人とのつながり・人づくりについて～	阿部結悟氏（一般社団法人ふらっと一ほく）	13
3月	3月26日（土）「ミガキイチゴ」ブランド作りから考えてみる対話と学び～商品のストーリーづくりとは～	ファシリテーター：齊藤光弘氏（NPO法人GRA/合同会社 あまね舎） 講師：岡内秀行氏・武田千明氏（NPO法	16



2015年8月



2016年3月

(3) 10月～3月：財団法人まちづくり地球市民財団「まちづくり人」応援助成 「被災地山元町が元気になるアートプロジェクト～復興への壁画作り～」

●内容

東日本大震災の大津波で壊滅したJR常磐線が山元町では2016年12月に復旧する予定である。その駅に隣接するフレスコキクチ社長からその新山下駅のロータリーとスーパーとの間に作る高さ2m、長さ35mの塀に「山元を元気にするアート」を表現する機会提供をいただいた。

●運営者

- ・企画・事務・広報（記録）、アート素材の収集・制作：ポラリス
- ・ワークショッププラン作成業務一式：NPO法人エイブル・アート・ジャパン
- ・ファシリテーター業務一式：NPO法人エイブル・アート・ジャパン 柴崎事務局長
- ・アートのデザインプロデュース業務一式：（デザイナー）福井恵子氏

●協力者や協力団体等

- ・(株)キクチ代表取締役社長菊地逸夫氏（相馬市）・NPO法人エイブル・アート・ジャパン（東京都）
- ・ポラリスメンバー・家族・ボランティア・清水ますみさん（東京都）・菊地文武さん（山元町）
- ・山元民話の会（山元町）・山元の未来への種まき会議（山元町）・一般社団法人ふらっとーほく（山元町）・山元町歴史民俗資料館（山元町）・(株)GRA（山元町）・山下中学校美術部（山元町）
- ・町内の伝統芸能の団体（山元町）・その他

●きりこアートワークショップ 11月29日

京都のデザイナー 福井恵子さんをお招きし、山元の歴史・民俗・自然をキリコという手法を使って表現することにチャレンジした。山元を知るために、はじめに、やまもと民話の会から「座頭橋」「片葉の葦」などの民話を語っていただいた。さらに、山元の古代から江戸時代までを、歴史に詳しい地域のボランティア 清水ますみさん、菊地文武さんにお話してもらい、福井さんにそれを聞いて自分がつくってみたいものをどうキリコにしていくかアドバイスをいただきながら、それぞれが作った。美術部の中学生、絵を描くのが大好きな支援学校中等部の生徒、ポラリスアーティスト、地域の参加者など皆さんが対話と学びの中から素敵なキリコを制作した。



福井恵子さん（左）を招いてのワークショップの様子



キリコを体験する中学生とポラリス利用者

2. 障害者支援事業

(1) 4月～7月：アート&ケアワークショップの企画開催

●4月25日(土)「春のキラキラを描こう」

参加者：32名(ワークショップ参加：11名、おしゃべりカフェ18名、スタッフ3名、)

●5月23日(土)「世界にひとつだけの花」

参加者：16名(ワークショップ参加：5名、おしゃべりカフェ4名、スタッフ3名、来客4名)

●6月20日(土)「おくりもの」

参加者：19名(ワークショップ参加：12名、おしゃべりカフェ2名(父兄)、スタッフ4名)

●7月19日(土)「オリジナルバッグ作りワークショップ」@霊友会「笑顔まつり2015」

ポラリスメンバー(予定：1～2名)が会場でバッグに絵を描き、即、展示&500円で販売。売上げは全額、霊友会に寄付した。※講師料や材料費などは霊友会より支援をいただいた。



(2) 8月9日(日)：ポラリス開所記念

「障害者の素敵な生きかた・はたらき方を考える学びと対話の会」

参加者：52名

●講演：「これからの障害者福祉のあり方」(仮題)

県南ありのまま舎所長 齋藤栄樹氏

●対話：「視察研修で学んだこと」

①足利 ころも学園&ココファーム

②奈良・京都 たんぼぼの家&スウィング

●星まつりライブ

①「星めぐりのうた」～宮沢賢治シリーズ

②「これからのポラリス」Fujisawa@Amu & Arakankan & Tanno@Bmumps



(3) アートによる障害者の素敵なはたらき方(企業・団体支援)

(株)岩見組様(山元町)、亘理山元いちご復興連携協議会様から以下のような仕事の提供をしていただきました



(株)岩見組(看板・HP・リーフレットのイラスト)



亘理山元いちご復興連携協議(キッチンカーのイラスト)

(4) 8月～3月：独立行政法人福祉医療機構助成 社会福祉振興助成

「被災地での障害者の孤立を防ぐ社会参加事業」

(事業内容)

- A.居場所・社会参加の場作り 期間中76回開催。延べ1700名。
 - ・集いの場ワークショップ・地域を明るくするボランティア活動・調理交流会・地域学習会
- B.対話による心のケアの場 実施日数132日。利用者数472名。
 - ・まちなか心の保健室
- C.活動を広報する：活動報告書の制作 1000部

(所感)

- 参加した障害者のいきいきとした表情に、本人以上に家族がその変化に驚き、障害によってできない事への悲観よりも、できることへの可能性に視点を持つことが重要ということをご理解いただいた。そのことで、家族が大いに応援し、送迎をしてくれたり、なんとか地域に出てほしいという家族の切実な思いがあった。
- この震災を経験し、障害者も「就労」だけでなく、「楽しむこと」「学ぶこと」のできる地域の環境づくりを進めていくことが必要であると感じ、それを実践した。また、障害者だけを対象とした取り組みは閉鎖的で、障害者にとって意欲低下や自己否定につながりがちで、地域も障害について誤解や偏見を解消する機会をつくれないと考え、様々な地域住民と共に「楽しむこと」「学ぶこと」機会をつくり生きがいと安心を持てる地域づくりを目指したことが、とても効果的であったと思う。このビジョンが、今後の被災地での地域福祉の発展に広く役立ち、必要と実感する。



調理交流会の様子

(協力・連携団体) 地球村アクティビティーズ メンタルヘルスボランティアの会 つばめ会
合戦原区 (株)GRA NPO 法人 GRA みやぎ心のケアセンター ゴスペルウィングス
すずの会 NPO 法人エイブル・アート・ジャパン Arakankan&Tanno@Bmumps
三者の会 花の店しなほり 山元町民生委員 山元町 山元町社会福祉協議会



「地域を明るくするボランティア活動」での園芸活動



勉強会の様子

3. 心のケア事業

月1回、みやぎ心のケアセンターの精神科医師らの協力で「心のケアカフェ」を開催できた。自分や、自分の周りの人の心のケアのために大いに参考になる内容を学びあえた。少子高齢化、人口流出が深刻な山元町で、地域づくりを目指す人たちが、「地域福祉」「心のケア」の知識を、ビジョンの基礎として持つことが重要と感じた。



2016年3月

● 「心のケアカフェ」

「地域発祥のNPOを大切に育てたい～燃え尽きないはたらき方について～」

「双極性障害を知る」

「不登校・ひきこもりを考える」「健康で文化的な生活・自死を考える」「パーソナリティ・つかず離れずの支援」

協力：みやぎ心のケアセンター福地成先生、ほか医師2名

参加者71人

4. その他の助成事業

(1) 東日本大震災現地 NPO 応援基金 大和証券フェニックスジャパン・プログラム 2015

「被災地で暮らす障害者の素敵な生き方・はたらき方を支援する人材育成」

期間：2015年10月～2016年9月

育成ビジョン：

- 当団体の事務局長として、代表と共に事業の全容を把握し、会計や税務、労務管理などを担える人。
- 従来の障害者福祉の価値観を変え、サービス業を代表する職業として捉える事ができ、障害者ひとりひとりの生き方を共感し、伴走できる人
- 地域の様々なバックグラウンドを持つ団体と信頼関係を築き連携して、被災した地域を魅力的に創生することに貢献できる人

(2) 公益財団法人 木口福祉財団 平成27年度被災地復興助成

「山元町の新たな障害者福祉拠点の環境整備」 (トイレと事務室の増設)

期間：2015年11月～2016年3月

トイレの増設により男女1箇所ずつのトイレが整備できた。また、事務室を設けることが出来た。日々の障害者をはじめとする利用者の活動がより快適になることに支援をいただいた。南側の日当たりの良い事務室は、相談室や休養室など多目的に使える環境空間に今後整備していく予定。



トイレと事務室の増設

(3) 一般財団法人 KIBOW 活動支援金

「新しい山元のシンボルになるアートな商品づくり」プロジェクト

期間：2015年7月～10月

内容：7月12日（日）、女川フューチャーセンターで開催されたKIBOW「社会事業プレゼン」に参加し、ポラリスは第3位で15万円の賞金をいただいた。そのプレゼン内容である「新しい山元のシンボルになるアートな商品づくり」を進め、ポラリスアーティストのイラストをプロのデザイナーがアレンジし、ポラリスのデビュー商品であるクリアファイル2種とビスコッティを作ることが出来た。ビスコッティは、NPO法人麦の会こっぺと共同制作した。



クリアファイル〈ポラリス〉



クリアファイル（山元応援編）



ビスコッティ

(4) 公益財団法人 愛恵福祉支援財団 社会福祉育成活動推進のための平成27年度助成

「事業運営に必要な設備備品の購入助成」

期間：2015年12月～2016年3月

内容：利用者の生活支援等に必要なおープンレンジやIHコンロ、洗濯機、ストーブの購入費用を助成していただいた。これらによって、日々、利用者の生活支援の幅を広げることが出来た。

(5) 社会福祉法人 読売光と愛の事業団 福祉作業所「アートのカ」助成

「障害者アートによる素敵な社会参加創造事業」

期間：2015年12月～2016年3月

内容：ポラリスオリジナルの「マグカップ」「ケーキ皿（4タイプ各2色）」「バンドナ」「コーヒー豆袋用シール」の制作費の助成。「ポラリス」を含む“こぐま座”を中心に、星空のきれいな山元町をポラリスのアーティストたちが様々な山元町のシンボルを描き、デザイナーによるアレンジで素敵に完成した。特産品である「いちご」「りんご」、鳥、木、花、雲、星座、ポラリスからやってきたこぐまちゃん、そしてみんなが集える場作りをイメージして、人、お家、苺ハウス。カラーはポラリスのイメージから、青、黄、白の3色で、北欧調にした。ケーキ皿は、徳島県阿波市にある社会福祉法人Callionれもん吉野（器れもん）と共同制作した。



バンドナ



マグカップ



まめ皿

【活動報告先】

月日	催名	主催者	場所
6月24日	宮城県中小企業家同友会 2015年度女性部 会総会	宮城県中小企業家同友会	仙台市
7月10日	金成支援学校PTA研修会	宮城県金成支援学校	金成町
7月17日	東北 奈良 つながりのフォーラム 震災から日 本再生へ	一般財団法人たんぼぼの家 / 社会福 祉法人わたぼうしの会	奈良市
10月24日	ひょうごボランティアスクエア21 市民活動団体 交流の集い2015	公益財団法人 木口福祉財団	兵庫県芦屋市
11月20日	平成 27年度亘理郡保健福祉懇談会	亘理郡医師会	亘理町
11月21日	震災心のケア交流会みやぎ	みやぎこころのケアセンター	岩沼市
3月4日	生活困窮者支援フォーラム	八幡浜市社会福祉協議会	愛媛県八幡浜市
3月11日	復興支援シンポジウム&チャリティーコンサート	3.11東日本大震災被災地応援チャリティー 実行委員会 (イオンズ*クラブ国際協会)	東京都
3月23日	東日本大震災 災害シンポジウム	横浜市社会福祉協議会	横浜市